

## Ⅷ. 運転者の運転適性 に応じた安全運転

本章では、個々の運転者の自らの運転行動の特性の把握の方法、これを把握した上での安全運転への配慮の方法などについて整理しています。

指導においては、実際の適性診断結果を用いて、個々の運転者に自己の運転行動の特性を自覚させ、これを理解した上で安全運転指導を行っていくことが必要です。

—【指針第1章2-(9)】

### 1. 適性診断の必要性

#### 指導のねらい

安全確保のため、国土交通大臣が認定する「運転者適性診断」を受けなければなりません。運転者の診断を徹底して励行させるとともに、診断結果を日々の指導や教育時などに活用するとともに、運転者には結果を真摯に受け止め、自覚させることが大切です。



#### ポイント

運転者適性診断は、運転の基本である視覚機能、判断・動作のタイミング、動作の正確さ、注意の配分についての測定を行い、また、模擬運転や性格診断などについて測定を行います。運転手はこの結果を運行の留意点として受け止め、自身の運転のくせを自覚する必要があります。

#### 【解説】

##### ● 適性診断とは 法

- ・ 運送事業者は、事故惹起運転者、初任運転者、高齢運転者に対し、国土交通大臣が認定する適性診断を運転者に受診させることが義務付けられています。
- ・ 「貨物自動車運送事業輸送安全規則」に規定する国土交通大臣が認定する適性診断は、(独)自動車事故対策機構をはじめ、複数の機関で実施されています。

種類	対象
一般診断	任意
初任診断	新たに採用された者
適齢診断	65歳以上の者
特定診断Ⅰ	死亡又は重傷事故を起こし、かつ、当該事故前の1年間に事故を起こしたことがない者 軽傷事故を起こし、かつ、当該事故前の3年間に事故を起こしたことがある者
特定診断Ⅱ	死亡又は重傷事故を起こし、かつ、当該事故前の1年間に事故を起こした者

## 2. 適性診断結果の活用方法

### 指導のねらい

運転者適性診断の結果は、それぞれの運転者の適性に応じたものとなるため、それぞれの運転者が配慮すべき事項はさまざまとなります。診断結果を活かして、自分のくせを理解・克服するよう、指導・監督を行っていくことが必要です。



#### これを活用！

(独)自動車事故対策機構 (<http://www.nasva.go.jp/fusegu/tekisei.html>)、  
ヤマト・スタッフ・サプライ(株) (<http://www.y-staff-supply.co.jp/safety/>)  
では、適性診断結果の活用講座などを実施しています。

### (1) 適性診断結果の活用方法の例



#### ポイント

適性診断の結果から、自分自身では気づきづらい、“運転のくせ”を知ることができます。しかし、自分で自分のくせを克服することは、大変難しいものです。そこで、適性診断結果の活用においては、運転者の指導教育を担当する管理者が「自分の運転の悪いくせを克服しようとする運転者を援助する」ことが大切です。特に、面接による助言・指導を行う場合には、受診者に適性診断結果と今後の安全運転のためのアドバイスがうまく伝わるように、助言・指導を担当する管理者の心構えも重要です。運転者は、自分のもつ事故につながりやすい特性が運転行動に現れないように、努力をして安全運転しているかもしれません。管理者は、まず運転者のこの努力を認める、よいところは褒めて伸ばす、というような、運転者の現在の状態を受容することが大切です。

管理者等が安全運転のための助言・指導を行うためには、適性診断結果の見方を正しく理解しておく必要があります。また、適性診断票には、測定結果に基づく安全運転のためのアドバイスも記載されているので、助言・指導を行うに際して、これらの情報をぜひ活用しましょう。

#### 適性診断などをはじめとした各種講習を実施している専門機関

運転者のための各種講習、適性診断、運行管理者のための講習などを実施している機関としている機関は全国にあります。

貨物自動車運送事業輸送安全規則第10条第2項に規定する国土交通大臣が認定する適性診断

■国土交通省自動車総合安全情報 (<http://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/O3safety/instruction.html>)

■(独)自動車事故対策機構 (<http://www.nasva.go.jp/index.html>)

以下では、特定の運転者に義務付けられている適性診断に関し、(独)自動車事故対策機構で測定している項目を例として、(2)～(4)で解説します。

顔写真

適性診断票

(適齢診断)

平成30年6月1日

[ 氏名 ] 殿



独立行政法人  
自動車事故対策機構

平成30年6月 [ ] 殿が受診なされた「適齢診断」の結果は次のとおりです。安全運転のためにご活用ください。

**[1] 総合所見**

○あなたの優れている点

- 気持ちのおおらかさが非常に優れています (80点)
- 安全態度が優れています (71点)
- 他人に対する好意が優れています (60点)
- 感情の安定性が優れています (60点)
- 協調性が優れています (52点)

●運転時に注意していただきたい点

- 判断・動作のタイミングが早いようです (30点)
- 動作の正確さにバラツキがあるようです (40点)
- 注意の配分に欠ける場合があるようです (42点)
- 危険感受性に欠ける場合があるようです (46点)

**[2] 心理適性についての診断結果**



グラフの見方：円の外側へいくほど状態が良好です。朱色の項目については特に注意が必要です。

この診断票の取扱いには特にご注意ください。 - 1/9 -

資料提供：(独)自動車事故対策機構

## (2) 「性格」の診断結果の活用

### ポイント

性格は運転のくせにも影響が大きく、なかなか自分で気付きにくいものです。性格面の特性の中でも、感情的な傾向、自分本位で協調性に欠ける傾向などは事故につながりやすいという研究結果が報告されています。事故につながりやすい性格特性が運転に現れないようにする方法について一緒に考え、相談しながら目標を決めることが助言・指導のポイントです。

### 【解説】

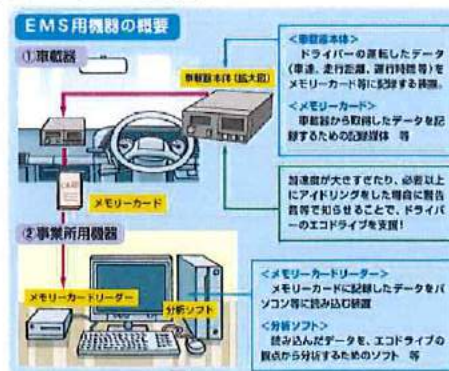
「性格」に関する測定結果と運転の関係は次のとおりです。

「性格」の測定結果と運転の関係

項目	特性	運転との関係
感情の安定性	「いらいらしがち(焦燥的傾向)、すぐかっとなるなどの衝動的ないしは興奮的傾向」、及び「怒りっぽい、すぐしよげるなどの感情的傾向」、そして、「気が変わりやすいなどの意志の不安定な傾向」をみるものです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イライラ運転</li> <li>・細かい注意がぬけてしまう</li> <li>・張り合う運転をしてしまう</li> <li>・急のつく運転など粗暴運転</li> <li>・スピードを出す</li> <li>・見過ごし、見誤りが多い</li> <li>・待たされることに不満を示す</li> <li>・クラクションを鳴らされるといらつく など</li> </ul>
協調性	「自分本位、自己中心的、協力性の弱さ、共感性の不足等の傾向」をみるものです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・譲り合いができない</li> <li>・ひとりよがりの運転</li> <li>・迷惑をかけても平然としている</li> <li>・目先の損得にとらわれる</li> <li>・戦闘的、攻撃的</li> <li>・相手のことを考えずクラクションを鳴らす</li> <li>・ルール違反を平然とする</li> <li>・強引な割り込みをする など</li> </ul>
気持ちのおおらかさ	「気持ちがおおらかで、おだやかであるか、それとも、気が小さく過敏でとげとげしいか」をみるものです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せかせかした運転</li> <li>・いじっぱりな運転</li> <li>・短気ですぐつかかる</li> <li>・小さいことに気を取られ、注意が不足するなど</li> </ul>
他人に対する好意	「疑り深さが強い、人を信じない、警戒心や敵意が強い」、「他人に批判的、攻撃的」という傾向をみるものです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意地悪な運転</li> <li>・自分にとって不都合なことは他人のせいにする</li> <li>・強がりや荒っぽい運転、戦闘的運転 など</li> </ul>

### デジタルタコグラフを活用した運転者のくせの把握

■デジタルタコグラフ等には、エコドライブシステム(以下、EMS)が付属している製品も多くあります。EMSは、急発進、急加速に対する警告、運転データ(車速、走行距離、運転時間等)の記録ができます。これにより、燃費の改善等が期待できますが、急発進、急加速などの運転を減少させることで、安全性の確保にもつながります。



### (3) 「安全運転態度」の診断結果の活用



#### ポイント

安全運転態度として、運転に対する態度、交通道德や交通法規等に対する考え方を測定しています。例えば、運転を甘く考え、自分の運転技術を過信する傾向がみられる人には高い評価がでないようになっています。運転を甘く考えたり、自己中心的な運転行動が危険を招くことを運転者に自覚させることがポイントです。

#### 【解説】

「安全運転態度」の測定結果と運転の関係は次のとおりです。

「安全運転態度」の測定結果と運転の関係

項目	特性	運転との関係
安全運転態度	「運転を甘く考えていないか」、「自分の運転技術を過信する傾向がないか」「自分本位になって他者への思いやりのない運転、“急”の付く運転（急発進、急停車等）になっていないか」といった運転に対する態度をみるものです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒っぽい運転になりがち</li> <li>・スピード本位で危険を誘発するような運転をする</li> <li>・運転を甘く考え、行動が軽率になりがち</li> <li>・運転を楽しむ傾向が強く、自己中心的な運転をする</li> <li>・運転技術を過信している など</li> </ul>

### (4) 「認知・処理機能」の診断結果の活用



#### ポイント

運転者は、自動車運転中は、状況の認知、判断、操作の作業を繰り返し行っているといえます。そのため、状況判断が適切か、複雑な状況における正確な動作がどの程度できるかを自覚し、自分の運転を振り返って、安全運行のための配慮事項を認識する必要があります。

#### 【解説】

運転における状況の認知、それに対応する処理にかかる特性として、危険感受性、注意の配分、動作の正確さ、判断・動作のタイミングの度合いを測定します。

「認知・処理機能」の測定結果と運転の関係

項目	特性	運転との関係
危険感受性	交通の状況を「よくみよう」とする積極的な姿勢は十分であるか、運転ぶりは慎重であるか、という2点を測定するものです。「スピードを抑え、積極的に確認をする」、「防衛運転を行うように切り換える」といったことを助言・指導することがポイントです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定のものに注意がうばわれ、一点集中になりやすい</li> <li>・よく見ようとせず、見落としや見誤りが多く、ヒヤリハットを起こしがち</li> <li>・漫然運転になりがち</li> <li>・狭い道路でも広い道と同じような速度で走る。 など</li> </ul>
注意の配分	注意の配分が適切に行われているか、左右どちらかに注意の偏りが生じていないかを主にみるものです。例えば、「右左折時は対向車ばかりに注意を集中せず、同時に横断中の歩行者等にも注意を配分する」といったことを助言・指導することがポイントです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路上の状況変化を効率よく的確に把握しきれない</li> <li>・交差点で右左折をするとき、対向車のみに関心をうばわれ、歩行者などに目がとどかないことがある。または逆に、歩行者などに気をとられ、他の車の動きから注意がそがれる。 など</li> </ul>

項目	特性	運転との関係
動作の正確さ	つぎつぎに生じる事態に対してすばやく正確な反応ができるか、反応にムラはないかをみるものです。「安全手順の励行と確認の先行」が助言・指導のポイントです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の予測しない状況にぶつかると、あわてて間違った行動をとる。</li> <li>とっさの正確な動作が不得手である。</li> <li>確認がおろそかで、すぐ動作にうつるくせがある。 など</li> </ul>
判断・動作のタイミング	「動作が先走って、見込みがあまり、すなわち「尚早反応」の傾向を重点的にみるものです。タイミングが早いひとには一呼吸おく気持ちをもって確認を行うこと、タイミングが遅いひとにはあわてて確認があまくなるように確認をしっかり行うことを助言・指導することがポイントです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>動作が先走って、情報の確認がおろそかになりがち。確認よりも動作に重点がおかれた運転になる。いつも急いでいるような心の状態になる場合もある。</li> <li>タイミングの早すぎは、“だろー運転”になりがち。見込みが甘く、ひとり合点の判断を示す場合もある。</li> <li>タイミングの遅すぎは、結果においてあわててしまい、確認もれが多くなる場合もある。 など</li> </ul>



### デジタルタコグラフデータ等を活用し、「運転のくせ」を認識させる その1

- 運転者が自分の「運転のくせ」を知るには、適性診断のほか、デジタルタコグラフデータ等、日々の運行データを活用することも重要です。
- デジタルタコグラフやEMS等では、総合的な運行の状況などを整理し日報として出力されるものや、速度についての分析チャートなどが出されるものも多々あります。
- 走行速度、エンジン回転などで、運行全体の速度について指導できるほか、急のつく運転などもセンサー検知してデータが出されるものもありますので、これらについても指導に活かすことが可能です。

速度チャート



### 急発進・急加速・回転オーバー回数・燃費グラフ



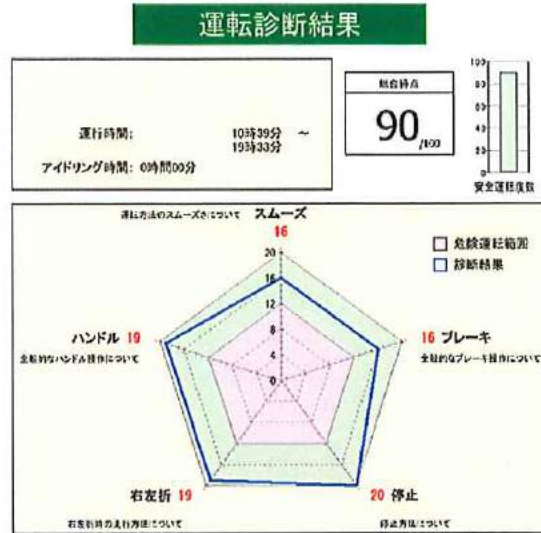
資料提供：矢崎総業㈱



## デジタルタコグラフデータ等を活用し、「運転のくせ」を認識させる その2

作成日: 2005年09月20日

- 運転診断結果は、評価点や分析チャートなどであらわすものが多くあります。
- 評価点の高い項目については褒め、また、評価点の低い項目については要因を理解させるようにし、配慮すべきことを運転者自身に自覚させましょう。
- 評価結果を社内でランキング表示するなどして、運転者の安全運転に対するモチベーションを向上させるなどの工夫も見られます。



診断項目	評価結果	コメント
ブレーキ	16	ゆとりのある、丁寧なブレーキ操作を心掛けているようです 今後も、現状のような丁寧なブレーキ操作を継続するよう心掛けさせましょう
停止	20	早目にブレーキを踏んでおり、非常に丁寧な停止方法です 今後も継続して、危険予測と早目で丁寧な停止を心掛けさせましょう
ハンドル	19	ゆつくりと丁寧なハンドル操作ができています 今後も継続して、危険予測と丁寧なハンドル操作を心掛けさせましょう
右左折	19	右左折前に、適切な減速ができています 今後も継続して、右左折前の適切な減速を心掛けさせましょう
スムーズ	16	走行中のブレーキ・アクセル操作はスムーズに行われています 「慣れ」による油断は、事故の原因となることをアドバイスしましょう
総合評価	90/100	全般的に、運転方法に問題は無いようです 運転方法には問題ありませんので、体調面・精神面への注意を心掛けさせましょう

□ は注意が必要な項目です

順位	ドライバー氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	平均	ランク	指導員	
1		95			95															99	99	99	99	99									97.6	A	0	
2					99	99	99	99	99	99	99	99									99	99	99	95	95	97								97.0	A	1
3		98	98	95	95	95	95	95	95	95											98	98	98	98	98	98								96.8	A	0
3		100	95		99	99	99	99	99	95											99	95	95	95	95	95								96.8	A	0
5		90	95	99	99	99	99	99	99	95											99	99	95	95	100	92								95.6	A	0
6		95	95	95	95	99	99	99	95												95	95	95	99										96.3	A	1
6		99		98	95	95	95	95	95	95											95	98	99	95	97									96.3	A	0
8		95	95		95	99	99	98	98											99	99	98	98	98	98									95.0	A	2
9		95		95	99	95	99	98	95												95	95	95	95										95.9	A	0
9		95	94	95	98	97	98	94													99	98	97	90	95	90								95.0	A	7
9		95	95	95	99	99	99	95	95												95	95	95	95	95									95.9	A	0
9		99	95	98	95	95	93	95	95												99	95	95	99	95	90	99							95.9	A	0
13		95	95	98	98																97	92	98	95	95	95								95.6	A	1
13		92	95	98	95	95	95	97													98	95	95	98	95	94								95.6	A	2
15		95			98	95	95	95													98	99	95	95	95									95.7	A	0
10		95	95	95	95	95	95	95	95												99	95	95	95	99									95.6	A	0
17		99		95	90	90	90	91	98												100	96	96	99	99									95.4	A	1
18		98	92	95	95	95	95	95	95												95	95	95	95	98	95								95.2	A	1
19		90	90	90	95	90	99	90													99	99	98	99	99	95								94.5	A	0
19		99	95		95	95	95	90													99	95	95	95	95									94.5	A	0

### 【事例】

茨城県のM社では、ドライブレコーダーで得られた運転診断評価、危険挙動の状況、1カ月の平均結果、適性診断結果などをもとに、運転者への指導を帰庫時や会議などを中心に行っています。ドライブレコーダーの導入、運転診断評価については、導入当初、運転者からの拒否反応もありましたが、運転者を指導する側の運行管理者がスキルアップし、運転者に理解させる能力を身につけたこと、また運転者と運行管理者が話しやすい環境なども整えたことにより、徐々に運転者の安全に対する意識が高まり、事故件数は導入3年後に80%削減されました。